

令和6年度 都城市立中霧島小学校 学校評価

教育目標：ふるさとを愛し、人間力あふれる（知・徳・体の調和のとれた）児童の育成

4：期待を上回る（90%以上）
3：期待どおり（89%～70%）
2：期待をやや下回る（69%～50%）
1：改善を要する（49%以下）

	評価項目	取組内容	評価結果(アンケート)			自己評価コメント	学校運営委員評定	学校関係者評価コメント
			教職員	児童	保護者			
隆かな学力の向上	授業改善を通した学力向上	・児童主体の授業づくり	2	4	3.1	学校全体の取組として、児童主体の授業作りと国語科を中心とした「読み取る力」「書く力」を育てることに重点を置いた指導を行ってきている。児童主体の授業作りに関しては、職員の取組が不十分だが、研修を重ねて中霧島小としての授業の形を作っていく。児童は、授業に対して積極的に関わろうとする児童が多い。	3.4	(児童主体の授業作り・ICTの推進) ○ 授業参観をさせていただき、児童主体の授業作りに関しては、先生方の努力されている様子を全学年を通して感じた。読み解く力・プラス書く力は、大人になっても大変大切な事なので、身に付ける時期にしっかりと指導してもらいたい。 ○ ICTを活用した授業を参観して、「授業風景」も変わったなど感じた。子ども達がPCを使い活発な発言もあり良かった。 ○ ICTを活用した学習が、児童の学習意欲を高めている。特に、タブレット端末を用いたオンライン学習は、児童が楽しみながら学習に取り組めている。 ○ 授業参観において、各学年学級とも創意工夫された先生方の熱心な指導とハキハキと答える児童が印象的であった。児童の学力のさらなる向上が期待される。ICT活用の授業が増えている。 (読み書の習慣化) ○ PC、スマホの関係で、本を読む文章を書く等、量的には少なくなっている。本を読む、文章を書くということが、思考の面では、基本的に大切なことだと思われるの、色々な機会を作ってもらいたい。 ○ ICTの推進も時代のニーズですので、調べる力もおのずと主流になっていくのは当然でしょうが、同時に学校図書館等により本に触れる機会確保を促してほしい。 ○ 昨年度と比べて読書量が低下したことが心配である。今後の読書習慣・読書時間の確保等を期待している。 ○ 課題の読書の習慣化のために、サポーターの先生と図書員会の子供たちで、楽しいアイデアを出して増やしていくよ。
		・読み解く力や判断力・表現力の育成	3	4				
		・読み書の習慣化	2	3				
		・習熟を図る時間の確保	3	3				
		・ICTの推進	3	4				
	非認知脳能力の育成	・山田ブロック9年教育の徹底	3	4	3	授業の中で、ICTの活用を積極的に進めてきた。家庭学習においても、ICTを積極的に取り入れICTを活用した家庭学習が定着した。 学習の基礎となる基本的な学習習慣（発表・返事・ノートの取り方・立腰）の指導が不十分だと感じているので、これから徹底していきたい。 家読が、今年度推進することがあまりできていなかったが、去年より家庭に取り組もうとした家庭が増えた。今後も、家読の大切さなど家庭へ啓発を行い、保護者の協力をもらいながら家読の推進に努めていきたい。	3.1	(家庭学習の充実) ○ 学校・家庭を通しICT活用の定着を感じる。 (家読の推進) ○ 家読には、保護者の協力も必要不可欠です。家庭・学校と連携を取りながら今後も推進に努めて欲しい。 ○ 家庭での読書、読み聞かせも子供をひざに乗せたり、横にくついて読んだり、触れ合いも大事にして取り組めば良い。 ○ 家庭により差が多いのは、想像できる。全体と通しては難しい思われるが、今後も家庭への啓発に期待したい。
人間力あふれる豊かな心の育成	特別支援教育の充実	・指導方法の工夫改善	3	3				
	家庭学習の充実	・ICTの活用	3	4				
	読書活動の充実	・家読の推進	2	3				
	基本的な生活習慣の定着	・中小よい子のきまりの徹底	3	4	3.3	保護者が、子供同士の人間関係づくりで去年よりも困りを感じている方が増えている。担任と連携して、子供の指導を行い、保護者同士は、PTA活動を通して連携できるようにしていきたい。 いじめ対策については、毎月全職員で共通理解をする時間を取り、児童のアンケートや観察から細かな変化を見逃さないようにお互い心がけている。また、道徳の学習においても、授業を保護者に公開（6月と1月）することで家庭、学校が連携して心を育むことに取り組んでいる。 「学校が楽しい」と約95%の児童が回答している。残りの5%の児童の困り感（学習・生活・人間関係等）を軽減し、少しでも「学校が楽しい」と感じられるように、保護者と協力しながら人間力あふれる豊かな心を育成していきたい。	3.4	(基本的な生活習慣の定着) ○ 昔ほど、地域のつながり、隣近所の付き合いが少ないので、学校だけでなく地域とのふれあいを通じて子ども達の人間力あふれる豊かな心の育成をねばしていかなければならない。登校時の元気なあいさつが非常にいい。 ○ 以前、朝の登校時、学校支援ボランティアの方々の活動（清掃と横断歩道見守り）と児童のしっかりとした挨拶や玄関前の清掃等を見学したことが、心に残っている。現在でも、学校外で下校時間に私が散歩中に児童と会えうと挨拶してもらっている。 ○ 朝の挨拶や学校内であった時は、元気に挨拶してくれる子ども達が多い。 ○ 社会的にネットが主流となり、活字離れが問題になっている。文章から意味や意義を読み取る読解力の著しい低下が懸念される。学校だけの促しや時間の確保だけでは追いつかないところが心配である。 (子供の魅力ある居場所の確保) ○ 「学校が楽しい」と約95%の児童の回答は、嬉しい限りだが、残りの5%の児童に目を向け学年があがるにつれて、増えている家庭・学校と適度な情報共有が大切である。各々の個性や家庭環境にも留意しながら、多感な時期に良い方向に導いていくように影ながら地域でも見守っていきたい。 ○ 担任の先生が、友達やクラスのことをよく聞き取りしてくれていると子供から聞く。今後も、されあに子供との距離を縮めて良い関係を築いて欲しい。 ○ 学校が楽しいとの回答が95%であることは、学校や先生方の努力の賜物であり、うれしい事柄である。残りの児童に対しての細やかなサポートを引き続きお願いしたい。
	体験活動の充実	・道徳の学習の充実	3	3				
	子供の魅力ある居場所の確保	・異年齢集団での活動充実	3	3				
	環境教育の推進	・子供の居場所づくり	3	4				
健康・安全教育の推進	・自他の人権の尊重	3	3					
	・無言清掃の徹底	4	3					
	・ボランティア活動の推進	3	3					
	・運動、栄養、休養の意識化	3	4	3.4	学校全体で、外遊びを推奨していることもあり、屋外で遊ぶ児童が多く、総じて元気である。昼休みなどは、異学年で遊ぶ姿も見られる。 一時期マイコプラズマ肺炎が流行し、休みが多い時期があったが、各クラスでの感染症対策や異学年活動などの制限により学校全体に広がることはなかった。 体力テストの結果は、50m走、ソフトボール投げが県平均を上回り、長座体前屈や反復横跳びが県平均を下回る学年多かった。柔軟性を高める運動も意識して行いたい。 メディアコントロールについては、学校でも端末を活用した課題を出すようになっているため、学校でも啓発が必要である。担任はもちろん保健室から保護者や本人に向けて啓発活動を行っていき保護者と協力しながら心身への影響を繰り返し児童本人に伝えていきたい。	3.6	(健康安全な生活習慣の育成) ○ PC、スマホを含めて、目を酷使するので目を大切にしてもらいたい。 ○ 食育・運動・睡眠の大切さを伝える教育の充実や地域の防災組織と連携し、より実践的な防災教育の実施、災害時の避難経路や避難場所を再確認し、万が一の場合に備えるなど、今後、健康安全な教育は、地域と協力して取り組んでいくよい。 ○ 家庭におけるメディアコントロールは、結局は保護者次第！心身の影響の恐ろしさと弊害を訴えて欲しい。 (健やかな体の育成) ○ 昼休み等異学年で屋外で遊んでいる様子を目にすると、微笑ましい光景である。なかなか放課後の地域等での外遊びが減っている現状を感じている。体力向上に向けては、特に小学校生の時期に体験により差が出ることもあるかと思う。柔軟性の低下は、体力にも関係していくと聞くので、精一杯外で遊ぶ等推奨し、促して欲しい。 ○ 運動会では、力強い走りっこり、見事に息のあった組み体操等が見られた。基礎体力も十分あると感じられる。毎年、先生方の楽しく工夫されたプログラムで、準備に大変だったと思うが、素晴らしい運動会であった。ただ、赤組・白組の点差がく、組み合わせ等で工夫が必要ではないかと感じた。 ○ 身体的な健康の推進は、様々な取り組みから見える。	
	・安全についての知識と知恵の定着	3	3					
	・適切なメディアコントロール	3	4					
	・外遊びの推奨など体力向上の取組	3	4					
	・教科体育の充実	3	3					
ふるさと	食に関する指導の充実	・給食指導と「弁当の日」の取組	3	4	3.9	本年度も、様々な学年の教育活動に地域の方々の協力をもらいながら学習したこと、教育活動に充実を図ることができた。また、地域の伝統芸能である相撲甚句を4年生の教育活動に組み入れ、保存会の皆様に御指導をいただきながら学習することができ、きりっ子ふれあい祭りはもちろん、地域の祭りや民芸祭まで出演できる機会をいただいた。90%以上の児童が、地域の方との学習は楽しいと答えている。	3.9	(ふるさと教育の推進) ○ 相撲甚句を学校の教育活動に組み入れられたことは良かった。参加している時の子供たちの表情がよく、地域の皆さんとのつながりという点では、とても大切なことだと思う。諸々の行事等で学校側が地域とのつながりを深めていくことがよく分かる。 ○ 本年度は、地域としても子供たちとたくさん関わる機会を設けて頂き、元気を頂いた。地域内で会っても子ども達から明るい挨拶あることも良く耳にする。これからもできる協力は、今後を担う子供たちに惜しみなく発揮していく。それが地域全体の元気にも繋がるかと思う。 ○ 相撲甚句やきりっ子ふれあい祭りなど地域と共同した取組は素晴らしい。 ○ 本年度、伝統芸能「谷頭相撲甚句踊り」を教育活動に組み入れていただき、学校と地域の繋がりが深まつた。来年度は、山田の歴史等も学べる資料を作成予定なのでその活用も視野にいれていただけるとありがたい。 ○ 今後も相撲甚句を中小の定番として残していくべきだと思う。地域の方がお花を植えて下さいますが、そこに合わせてボランティアを募ってみては、どうかと考えている。交流しながら自分たちの学校をきれいにできる良い機会と考えている。 ○ 「ふるさと」この言葉が何とも癒やしてあたたかい。現在されている学習活動は、子供たちの胸に刻まれると感じている。
	ふるさと教育の推進	・地域素材人材を生かした教育活動	3	4				